

# 経済・金融 フラッシュ

## ユーロ圏失業率(2022年10月) —失業率は低いが若年層では悪化傾向

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

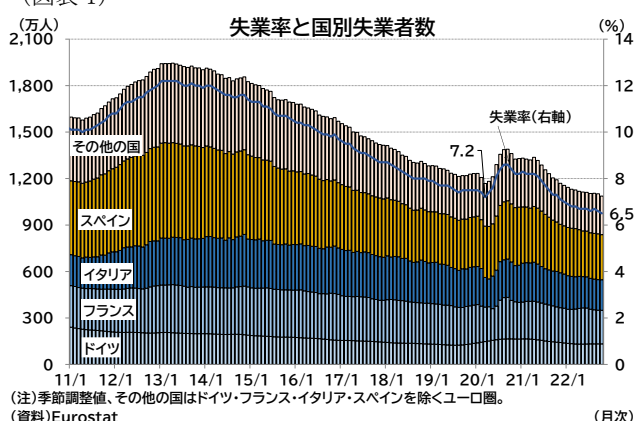
### 1. 結果の概要:失業率は6.5%まで低下

12月1日、欧州委員会統計局(Eurostat)はユーロ圏の失業率を公表し、結果は以下の通りとなった。

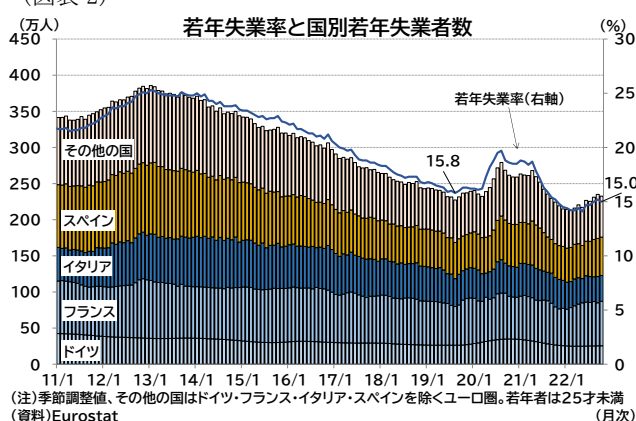
#### 【ユーロ圏19か国失業率(2022年10月、季節調整値)】

- ・失業率は6.5%、市場予想<sup>1</sup>(6.6%)を下回り、前月(6.6%)からやや低下した(図表1)
- ・失業者は1087.2万人となり、前月(1101.4万人)から14.2万人減少した

(図表1)



(図表2)



### 2. 結果の詳細:若年失業率の悪化傾向が鮮明に

ユーロ圏の22年10月の失業率は6.5%で、前月(6.6%)からやや低下し、統計データ公表以来の最低値を更新した。なお、9月以前のデータは改定値でほとんど修正されなかった。

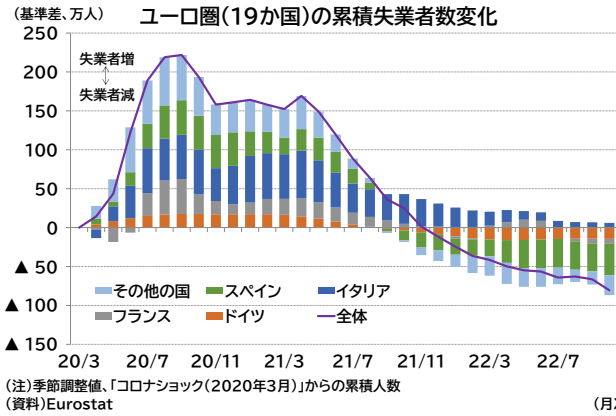
失業者数は10月の前月差で14.2万人減となり、減少幅は9月(同3.6万人減)から拡大した(図表3・4)。主要国の10月の失業者数変化は前月差でフランス(▲4.7万人)が大幅に減少、イタリア(▲0.7万人)とドイツ(▲0.2万人)がやや減少、スペイン(0.0万人)が横ばいだった。

10月の若年失業率は15.0%となり、6月(15.2%)からやや低下した(図表2)。ただし、9月以前の数値が大幅に悪化方向に改定されている(9月14.6→15.2%、8月14.4→15.0%、7月14.4→14.7%など)。単月で見ると若年失業率は低下したが、改定後のデータでは22年5月(14.1%)をボトムにした悪化傾向が鮮明になっている。

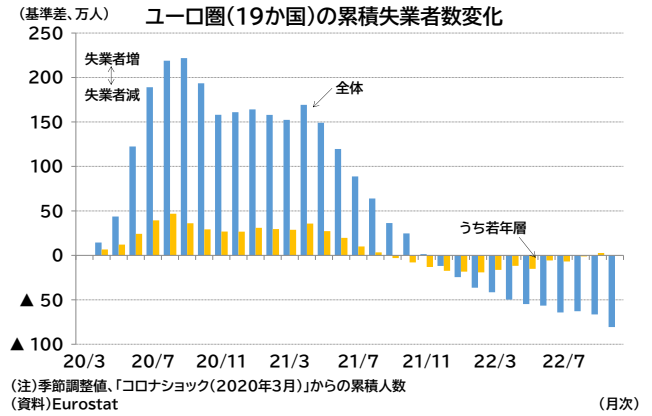
<sup>1</sup> bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

若年失業者数は10月で232.6万人（前月差▲2.5万人）となり、9月（+3.9万人）の増加からマイナスに転じた（図表4）。失業者数は、総数で見るとコロナショック時（20年3月）を大幅に下回っているが、若年失業者はコロナショック時と同水準で推移している。

（図表3）

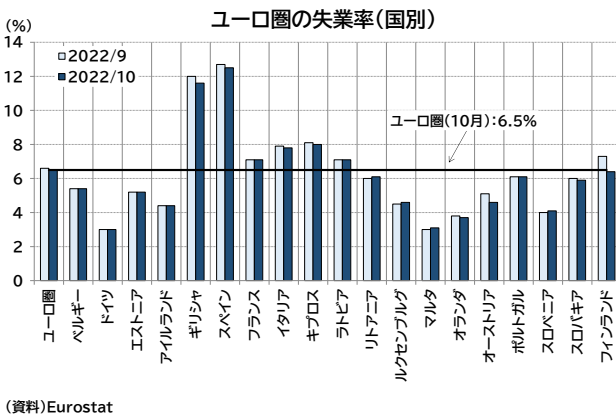


（図表4）

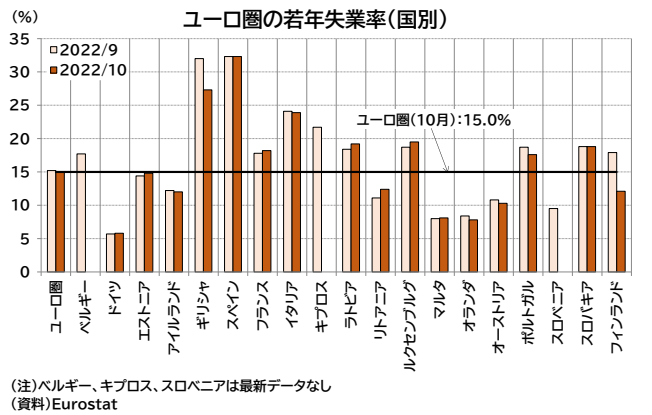


国別の10月のデータを見ると、失業率はデータが公表されている19か国中、悪化した国が4か国、改善が8か国、横ばいが7か国だった（図表5）。また、若年失業率は公表されている16か国中、悪化した国が7か国、改善が7か国、横ばいが2か国だった（図表6）。

（図表5）

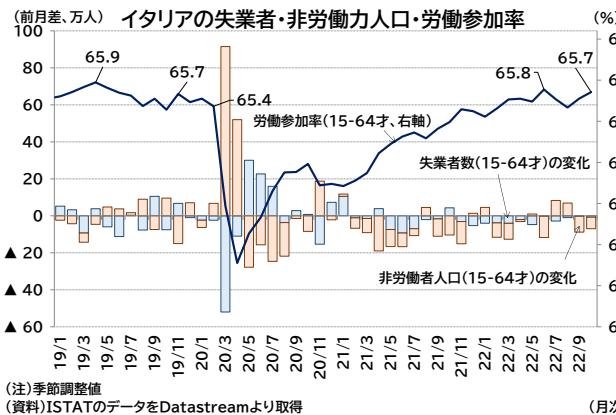


（図表6）

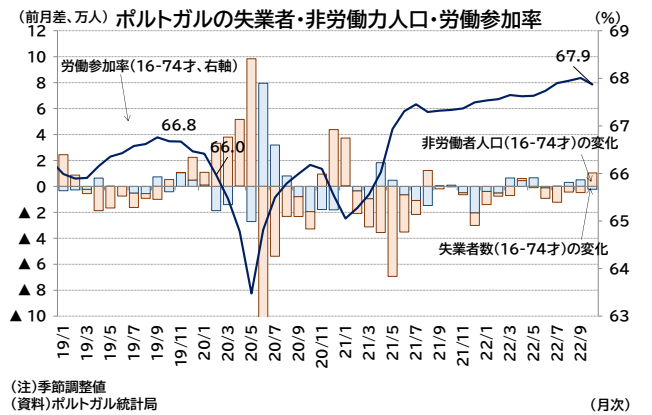


最後に詳細な月次データを公表しているイタリアとポルトガルについて確認すると、イタリアでは失業者と非労働力人口が減少し、就業者は増加、労働参加率は65.7%とやや改善している（図表7）。一方、ポルトガルでは失業率は減少したが、非労働力人口が大幅に増加、就業者数も減少している。労働参加率は高水準だが（図表8）、就業者数は3か月連続の減少で冴えない結果だった。

（図表7）



（図表8）



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。